

腔の感快と欣喜とを以て之を迎ふるより推せば、如何に戈壁旅行の艱苦なるかを  
 知るに足らん。要するに沙島は一に飲料水を得るの中續驛のみ。而も其の水た  
 る琅々玉の如きものは、到底得て望むべからず多くは鹹味を帯びたるものに非ざ  
 れば、或は溷濁せる瀦水を用ひ、甘露として舌を鼓せざるべからず素より鹹味なき  
 河水に至つては、最好良の飲料とすべきも到る處に之を得ることは不可能なりと  
 す。

此の如く、飲料水すら十分を望むべからず。其の他旅舎糧秣等も缺乏せりと雖  
 も沙島なくんは、如何に人力の限を盡すとも、數月の沙漠旅行は、竟に遂行すべから  
 ざるなり。

### 五 沙漠と暴風

古來海洋に比せられたるの戈壁、豈怒濤狂瀾の岸を噛み天を拍つもの無からん  
 や。名は瀚海と稱すと雖も水を湛へたる洋に非らずして、沙を盈たされたる海な  
 れば、多少海洋の激浪と其の趣を異にせり。若し夫れ颶風蕤然として起らんか乾  
 坤忽ち晦冥と爲り、狂飈怒號地を捲きて來り、電光閃灼、天を擘きて射る。樹木折れ